

2/17

# 70年安保粉砕に向け 市大封鎖斗争を貫徹し 全口学園斗争に勝利せよ

全口学園斗争の全人民的  
政治斗争の質とは何か！

昨年インターン制度撤廃、医専部予当処分紛争に端を以つた東大斗争は、一時的には旧別斗争の限界を突破できず停滞せざるを得ない局面を迎えつつも、社界間の赤ヘルメットの組織された部隊による白田福堂の占拠によつて、大学当局の一時的大規模麻痺を創出し、その介入をめぐり、現任の帝口主義大学斗争をけるか否かという時局になつて、いわば学生の特殊利害の追求をその斗争の中に見出す抗争派の拍頭を許した。しかしながら東大斗争は、帝口主義国家の統治機構の末端にある大学において、階級斗争のもつ普遍性及、反帝戦線の形を、学生の間を、根柢から揺り動したといつて、旧別斗争の枠を突破した。それがある、二月八日の日共共産党の反軍事的登場と、二月十八日、十九日の白田福堂の反防戦を展開せしめた。このような旧別斗争から政治斗争への上昇は、全口学園入試阻止に向つて、全口評議会の出発点と、具体的には、中大、日大、京大、関大、関学と全口共十大学において、全人民的な斗争として斗ひわれ、九月以降の反防戦の根柢地として、その質を確立し、いつつある全口学園斗争と連帯せよ。

## 2 封鎖斗争を貫徹し、70年安保粉砕の武器部隊を組織せよ

旧大生全斗が東大斗争と質を同じくしたのは、百、体制内者性をスローダウンにしつつも、日大の信任規定を、中堅内者生産の場として肥え、帝口主義統治機構の斗争を八割阻止して設置したことであり、同時にマルジョウ力力の暴力に、プロレタリアの階級的暴力を対置したことである。

前大封鎖斗争は、拒否的要求といつマルジョウ改良的要求を突きつけたところから始まった。如前に改良主義的要求であったとしても、封鎖は、現時点に移せば、もはや實質的な拒否の行使であり、その運動はそこそこであること知らず大衆という旧別領域での、大衆当局との二重権力状況を作りだしつつあるといつことを確認しなければならぬ。

全口学園斗争は新たな階級未決を創出し、前大斗争もその未決の中で斗ひなわっているといつことを、よく知るならば、封鎖を最後の最後まで貫徹し、全口学園勝利に向ひ、市大を全人民的な反防戦の陣地とし、70年安保を斗ひ取らん。